

ナシ炭疽病のストロビルリン系薬剤に対する感受性の低下とその対策					
〔要約〕ナシ「豊水」で問題になるナシ炭疽病は、ストロビルリン系薬剤に対する感受性が低下している。					
佐賀県果樹試験場・病害虫研究担当				連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp
部会名	果樹	専門	果樹病害虫	対象	ナシ

〔背景・ねらい〕

ナシ炭疽病が、2011年及び2012年に佐賀県内の「豊水」で多発した。現在、ナシ炭疽病に対して、収穫前の防除にはストロビルリン系の薬剤が散布されているが、防除効果が低下している可能性が考えられる。そこで、ナシ炭疽病菌のストロビルリン系薬剤に対する感受性を検定するとともに、ストロビルリン系以外の薬剤の防除効果を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 佐賀県内に、ストロビルリン系の薬剤に対して低感受性のナシ炭疽病菌が存在する（表1）。
- 2 アミスター10フロアブル(アゾキストロビン)低感受性のナシ炭疽病菌は、他のストロビルリン系の薬剤(ストロビードライフロアブル及びナリアWDG)の防除効果も低い(表2)。
- 3 ストロビルリン系薬剤に対して低感受性の菌が存在する圃場では、収穫前の防除で、オーソサイド水和剤(キャプタン水和剤)を散布すると高い防除効果が得られる(表3)。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 オーソサイド水和剤(キャプタン水和剤)は、「幸水」では果面に汚れが生じやすいので「幸水」との混植園で散布はさける。

表1 ナシ炭疽病菌の感受性検定(寒天希釈平板法:2011年)

調査菌株数	感受性菌株数[-]	低感受性菌株数[+]	低感受性菌株率
61	41	20	32.8%

アゾキストロビン 100ppm 加用 PDA 培地(SHAM 加用)で3日後に菌糸伸長が認められた菌を低感受性菌とした。

表2 ナシ炭疽病菌に対する各種薬剤の防除効果

(室内試験:2012年, 2013年)

	供試薬剤	希釈倍数	発病面積割合(%)	
			感受性菌	低感受性菌
ストロビリン系	アミスター10フロアブル (アゾキストロビン)	1,000	15.0	91.7
	ストロビードライフロアブル (クレソキシムメチル)	2,000	23.3	40.0
	ナリアWDG (ピラクロストロビン・ボスカリド)	2,000	—	70.0
その他	オーソサイド水和剤 (キャプタン)	800	—	0
	オキシラン水和剤 (キャプタン・有機銅)	500	—	2.5
	デランフロアブル (ジチアノン)	1,000	15.0	12.5
	無散布 (—)		85.0	100

—:未実施

葉が2枚ついた‘豊水’枝を各2本ずつ用いた。

各薬剤散布翌日に孢子懸濁液を噴霧接種し、接種10日後の葉での平均発病面積割合を算出。

表3 ナシ炭疽病に対するオーソサイド水和剤の防除効果

(圃場試験:2013年)

供試薬剤	発病葉率(%)
オーソサイド水和剤 (キャプタン)	3.3
ナリアWDG (ピラクロストロビン・ボスカリド)	12.7

‘豊水’1区4m×4m3反復。

2013年8月1日散布、9月9日調査(9月上旬収穫)

前後は慣行散布(両区共通)

[その他]

研究課題名: 抵抗性病害虫対策を中心とした果樹病害虫制御技術の構築

予算区分: 国補

研究期間: 2012年~2014年

研究担当者: 野口真弓、白石祥子、川内孝太、口木文孝

発表論文等: 平成24年度~平成25年度 佐賀県果樹試験場業務年報